

島根大学附属図書館 年報2017

SHIMANE UNIVERSITY LIBRARY Annual Report 2017

島根大学附属図書館の活動の一端

図書館職員の下、どうにかこうにか館長を務めて、4年目に入りました。この間、「大学図書館」に関して多くのことを学ばせて頂きました。私の所属している学科の予算や個人研究費で、以前は多くの専門誌や書籍を購入していましたので、その手続きなどのお世話を図書館職員にしてもらっていたことは十分認識していましたし、2008（平成20）年度から2011（平成23）年度まで、総合理工学部の附属図書館運営委員として会議にも出席していましたので、本学の図書館のことはある程度は知っていると思っていました。しかし、それは「教育」や「研究」に関する図書館のサポートの一部だけであって、図書館職員の皆さんはそれ以外にも学生や教職員に対して数多くの支援をしていることが、館長就任直後に分かりました。

これらはすべて図書館職員の仕事だと割り切ってしまうと、それまでなのかもしれませんが、毎年のように変化する状況に合わせて、職員各自は専門的能力を生かした提案・企画を出して、それを実現しています。

例えば、本学附属図書館では担当職員の指導・助言の下で、「図書館コンシェルジュ」という学生グループが大いに活躍してくれています。これは学生目線からの提案を図書館運営や業務に生かす取り組みであって、2010（平成22）年度から開始されました（p.13参照）。コンシェルジュの活動は学内だけに留まらず、最近では、地域社会との連携の観点から、松江市立図書館に出向いて「団体貸出制度」により本学が借り受ける図書をコンシェルジュの学生が選書したり、近隣の図書館での「幼児向け絵本の読み聞かせ」を行ってきました。また、他大学の図書館で同様に活動する学生間の交流を促進するため、本学附属図書館が「大学図書館学生協働交流シンポジウム」の開催を提案し、2011（平成23）年度から毎年継続してきました。はじめは山口大学、島根県立大学、梅光学院大学と島根大学の4校だけの参加でしたが、次第に参加大学数や参加学生数が増し、2017（平成29）年度に愛媛大学で行われた本シンポジウムでは、全国から32大学・159名の参加者がありました。今後も益々発展するでしょう。この「学生協働」の運動は各地に飛び火して、近年は「学生協働ワークショップin東京」や「全国学生協働サミット」が開催されるようになり、本シンポジウムの取り組みが全国へと波及しています。このような全国の学生協働の交流事業における本学のパイオニア的な役割が評価されて、山口大学図書館とともに、2018（平成30）年度の国立大学図書館協会賞を受賞しました。本学附属図書館はこれまで2007（平成19）年度と2014（平成26）年度にも別の活動に対して、同協会賞を受賞しています。12年間の間に3度も表彰された国立大学は他になく、その意味からも本学附属図書館の活動は多岐に渡っていると言えるでしょう。

近年、附属図書館では「地域発信・地域貢献」にも相当な力を入れています。Web上の郷土資料室「しまね地域資料リポジトリGO-GURa（郷蔵・ごうぐら）」もその一つです。これは本学のCOC事業の一環として整備されたもので、島根県内の市町村までのすべての行政機関、企業、NPO法人

等の各種団体が発行される報告書等の資料をデジタル化して、世界に発信しようというものです。このような包括的な取り組みは他県には少なく、これも先進的なものです。GO-GURaへの参加機関は次第に増えてきました。また、地域連携活動を促進するために、2016（平成28）年度から始めた「地域コミュニティラボ」があります。この活動では、附属図書館の展示室を活用して、地域の行政機関・企業・NPO法人等の活動や成果報告を展示しています（p.10参照）。さらに、この事業とは別に、附属図書館企画の展示として、2017（平成29）年度は「江戸力」展、「教科書のあゆみ」展、「戦争と平和を考える」展を、2018（平成30）年度は「島根大学のあゆみ」展、「イラストでたどる西洋人の見た明治初期日本」展を開催するなど、資料提供を通じた社会貢献活動も精力的に行っています（p.11参照）。

これからも図書館職員の皆さんの努力と斬新なアイデアが本学の「教育・研究・地域貢献」への有効な支えになることを大いに期待しています。

附属図書館長 杉江実郎



附属図書館の理念と目標

2013（平成25）年8月2日学術情報機構附属図書館運営会議承認

理 念

島根大学は、社会の発展と進歩に貢献するため、豊かな人間性と専門性を身につけた人材の養成を使命とし、創造性ある研究の促進や地域連携を推進しています。（「島根大学憲章」より）

附属図書館は、島根大学における学修、教育、研究を支援するための基盤施設として学術情報の収集、提供に努め、また、地域や国際社会との連携をすすめ、地域に根ざし、社会に貢献できる図書館を目指します。

目 標

1. 学修・教育支援のための資料と環境の整備

学生の学修を支援するため、充実した資料と学修環境を整備し、人格を育む教育を目指して、学内の教育研究プログラムと連携した教育支援を行います。

2. 研究支援のための学術情報整備

多様な分野の特色ある高度な研究を支援するため、国内外の学術情報の収集整備に努め、これらを効率的に利用できる電子図書館機能を充実します。

3. 地域の学術情報拠点としての連携協力

地域の特性と大学の特色を生かした企画、運営をすすめ、地域の学術情報拠点として、資料提供、連携企画、情報発信等を積極的に行います。

4. 学術コミュニケーションへの貢献

大学の研究成果や貴重資料を世界に向けて発信し、学術コミュニケーション活動に貢献します。

※2016（平成28）年度から附属図書館は機構から外れ、単独部局となった。

CONTENTS

TOPICS _____ 4

図書館の動向

・学術情報基盤整備計画	8
・研究開発室の活動状況	9
・地域コミュニティラボ	10
・社会貢献—学術情報の提供をとおして—	11
・医学図書館の講習会戦略	12
・図書館コンシェルジュの活動	13

図書館日誌

・図書館日誌	14
・雑誌等での発表・報告／講師等／報道	15
・刊行物／研修／人事異動	16

統 計

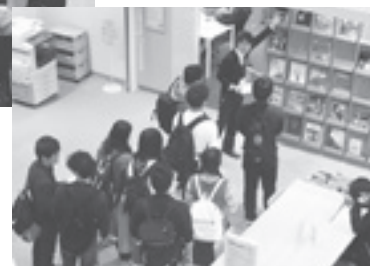
・基本統計	17
・利用者	18
・貸 出	19
・図 書	20
・図書館資料費	21
・電子ジャーナル／データベース	22
・Webサービス	23
・相互協力	24
・講習会／その他	25

■必修科目「情報科学」で図書館ガイダンスを実施

本館では、学部1年生の必修科目である「情報科学」の1コマを使って、図書館ガイダンスを実施した。このガイダンスは2016（平成28）年度から始めており、今回は学部学科別に分かれた15クラスに対して、4月下旬から5月中旬にかけて行った。

ガイダンスは、1コマ（90分）を3つのパートに分けて実施した。図書館職員が担当したのはそのうち2パートで、「図書館サービス概説」では大学図書館の概要とOPACの使い方を紹介し、「図書館ツアー」では館内の図書の並び方や様々な学習スペースを案内した。前年度で得た反省点を活かし、よりスムーズな進行で、図書館の使い方を新入生に案内することができた。e-learning形式で行われる「情報セキュリティ研修」のパートは企画広報情報課の職員が担当した。

【2017年4-5月】



■データベース紹介サイト「来たぞ!データベース戦隊!」の公開

「来たぞ!データベース戦隊!」は初学者向けのデータベース紹介サイトである。学内でよく利用されるデータベースをキャラクタ化し、漫画で簡潔に特徴を説明する。詳しい説明や利用法を知りたい閲覧者のために、図書館活用ガイド（LibGuides）の該当ページへのリンクもある。トップページではキャンパスごとに入口を設け、各キャンパス向けのデータベースの紹介漫画にアクセスしやすいよう工夫した。島根大学OPACをはじめ、県内図書館の横断検索、CiNii、NDLサーチ、医中誌Web、Web of Scienceなど主要なデータベースを取り上げている。

データベースのキャラクタ化に際しては、各関連機関と連絡を取りキャラクタ化の可否を確認した。また、「○○戦隊」という名称や色分けされた複数のキャラクタが登場するという漫画の設定を利用するため、本学と東映株式会社間で契約を結んでいる。キャラクタ化と漫画作成については、職員の原案をもとに、図書館コンシェルジュのOBに依頼し作成してもらった。詳細は下記文献で報告している。

参照：佐藤陽子.初学者向けデータベース紹介サイト「来たぞ!データベース戦隊!」制作記. 医学図書館. 64(4), pp219-223, 2017.12

【2017年5月】



<https://shimadailib.wixsite.com/db-tutorial>

■市立図書館の移動図書館車の巡回開始

松江市立図書館との相互協力協定に基づき、2017（平成29）年度から新たに、同館が運用する移動図書館車「だんだん号」の本学松江キャンパスへの巡回が始まった。

専門書が中心である当館の蔵書の弱い部分を補い、現代小説や実用書、絵本などの幼児向けの本を学生や教職員に提供して本に親しんでもらおうと始めたものである。初年度となる2017（平成29）年度は計4回巡回があり、約100人300冊を超える利用があった。

普段、市立図書館まで出向いて利用する学生は多くないようで、その場で利用登録ができることも好評である。教職員や近隣の市民の利用もあり、毎回賑わいを見せている。

【2017年5月～】



■ワークショップ「古文書・古典籍の保存継承について考える」を開催

古典籍を学び始めた学生や実務に携わっている図書館職員を対象にした、標記ワークショップを学内外の諸団体と共同で開催した。講義と実習を通して古文書・古典籍の保存継承の意義と必要な知識を学ぶ内容で、講師には出雲市立出雲中央図書館主任司書の蒲生倫子氏を迎えた。本学の学生をはじめ、本学図書館職員や県内の大学図書館職員、本学教員など46名が参加した。

実習では、当館所蔵の古文書・古典籍を実際に用いて、様々な保存手法の1つとして中性紙で古文書・古典籍を包む作業に挑戦し、保存継承のための作業の繊細さを体感する貴重な機会となった。



日時：2017（平成29）年6月27日（火）12：45～14：15

場所：附属図書館(本館) 多目的室

主催：島根大学法文学部山陰研究センター

島根大学古典籍アカデミー

島根大学附属図書館

共催：島根県大学・高等専門学校図書館協議会

【2016年6月】

■第13回蔵書リユース市を開催

本館で恒例行事となっている蔵書リユース市を2017（平成29）年度も開催した。図書館で重複等を理由に不用となった図書の再利用を目的として、大学生協の協力のもと毎年開催している。秋に例年開催してきたが、今回より初夏に開催することとした。1日目は本学の学生・教職員、2日目以降は一般市民も対象とし、いずれも多くの来場者で賑わった。

日時：2017（平成29）年6月30日（金）、7月3日（月）～4日（火）

場所：松江キャンパス学生会館3階 大集会室

【2017年6-7月】



■中学生の職場体験受け入れ

本館では、2017（平成29）年10月、5日間にわたり松江市立湖南中学校から職場体験の生徒2名を受け入れた。体験してもらった業務は、図書の返却作業、カウンター業務、図書のラベル貼りなどが中心であったが、書架の整理や机の清掃作業など館内の環境整備に関する業務に対しても積極的に取り組んでくれた。

医学図書館では、同年9月、それぞれ3日間にわたり出雲市立第三中学校及び第二中学校から職場体験の生徒を各2名ずつ受け入れた。生徒たちにとっては初めて体験する業務ばかりだったが、熱心に取り組んでいた。また、業務で得た気づきを生かしたポスター作成・掲示や、資料を保存するための簡易帙の作成なども体験してもらった。



【2017年9-10月】

■全国遺跡報告総覧、行政機関向けの説明会を全国で開催

附属図書館がプロジェクト事務局をしている埋蔵文化財の発掘調査報告書の全文データベース「全国遺跡報告総覧」について、全国5ブロックで行政機関等の埋蔵文化財担当者向けの説明会を開催した。

この事業は、利用需要は多いものの少数発行で入手しにくい、発掘調査報告書の利活用促進を目的としている。「全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト」（代表機関：島根大学附属図書館）からコンテンツを引き継ぎ、2015（平成27）年6月より国立文化財機構奈良文化財研究所が運用しており、登録数、利用件数ともに順調に伸びている。

説明会は、参加機関のさらなる拡大を企図したもので、文化庁の担当調査官らによる講演や、既に参加している自治体職員による事例報告の他、参加手続きの案内を行った。最後の開催となった東京会場では100名近くの関係者が参加し、熱心な質疑応答が行われた。

場所(日)：奈良文化財研究所（9/29）、東北大学（12/20）、
岡山大学（1/23）、福岡市博物館（2/2）、
東京文化財研究所（2/20）

【2017年9月-2018年2月】

■第53回日本医学図書館協会中国・四国地区会総会

医学図書館を当番館として標記総会が開催され、中国・四国地区の大学医学部、病院等の図書館（室）12機関より、20名の参加があった。

1日目は、各館からの活動報告、協議事項の審議のほか、医学図書館見学ツアーも行った。2日目には、継続教育発表と承合事項の確認が行われた。継続教育発表は3館が行い、当館も利用者教育についての事例（「看護師を対象とした文献検索講習会」）を報告した。

日時：2017（平成29）年11月16日（木）～17日（金）

場所：島根大学医学部看護学科棟3階会議室

【2017年11月】



■しまね大交流会2017にブース出展

3回目の開催となったCOC+事業「しまね大交流会」は、山陰地域への若年層の定着を図るキャリア教育の一環として実施されており、今回は2,000名を超える来場者で賑わった。

附属図書館は2ブースを出展し、しまね地域資料リポジトリや地域コミュニティラボ等の事業紹介を行ったほか、「図書館コンシェルジュ」の学生が地域や他機関と関わりのある取り組みを中心に報告を行った。

日時：2017（平成29）年11月18日（土）

場所：くにびきメッセ 大展示場

【2017年11月】



■第26回島根県医療関係機関等図書館（室）懇談会総会を開催

島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会は、県内の病院図書室を中心とした医療関係機関の図書館等の連携強化を目的に1990（平成2）年に設立された。2017（平成29）年度の総会は松江市立病院がんセンターを会場に開催され、15機関18名の参加があった。

同病院長の紀川純三先生による講演のほか、協議・報告事項の確認と発表2題が行われた。この総会は、年に一度顔を合せて情報交換ができる貴重な機会となっている。

日時：2017（平成29）年11月24日（金）

場所：松江市立病院がんセンター 3階講堂

【2017年11月】



■図書館の利用状況調査を実施

本館及び医学図書館において、図書館における利用状況調査を行った。この調査は、時間帯エリア別に館内の利用者の行動を目視で記録し、エリアごとの利用者の利用時間を時間帯別に推計しようとするものである。この調査によって、館内の各エリアでどのような利用がなされているのかを明らかにし、図書館サービスや施設の改善に役立てることを目的としている。また、データをもとに、図書館における学生の自主的学修時間の推計が可能となると考えられる。

調査日は、いずれも平日の1) 通常期、2) 繁忙期（試験期間中の開館日）、3) 閑散期（長期休業中の開館日）の各1日計3日間とし、過去の入館者数統計をもとに、平均的な日を選定した。

調査の結果、本館では、繁忙期は通常期の約1.5倍に利用時間が増え、閑散期には通常期の約2割弱に総利用時間が減っており、時期によって利用量が大きく変動することが分かる。ラーニングコ

ンズやPCルームが位置する交流ゾーンがいずれの時期においても最も活用されており、利用者の行動も「発話」（ラーニングコモンズ）、「機器利用」（PCルーム）などの行動が多くみられ、本来の利用がなされていることが分かる。繁忙期（試験期）には、学習ゾーンと研究ゾーンの利用率が高まる傾向にある。

医学図書館では、通常期、繁忙期（試験期）、閑散期の各時期において総利用時間に大きな変動が見られない。通常期、繁忙期は、深夜開館している時間帯の総利用時間が昼間の2割前後であるのに対して、閑散期は、深夜開館している時間帯の総利用時間が昼間の約2.5倍に増えているのが原因である。

利用状況をさらに詳細に分析し、サービス改善に役立てるとともに、今後も継続的に調査を実施したい。

【2017年12月～2018年3月】

■デジタルアーカイブ・システムをリニューアル

地域の古典籍・古文書・古地図等のデジタル画像を公開しているデジタルアーカイブ・システムを2018（平成30）年1月にリニューアルした。

デジタル画像の相互運用のための国際規格IIIF（トリプルアイエフ）に対応したほか（国立大学では2例目）、旧システム（2009年公開）で学外公開していた本学所蔵資料について、クリエイティブコモンズ・ライセンス「表示4.0」（CC BY）に変更し、さらなる利用促進を企図した。

今後、他機関の所蔵資料及び公開範囲に制限をかけているコンテンツについても、順次登録を進める予定である。

【2018年1月】



■ウィキペディアタウンの研修会を開催

松江市立図書館、島根県立図書館との共催で、本館で「ウィキペディアタウン」の研修会を開催した。この研修は、図書館職員や本学教員を主な対象として、ウィキペディアの記事編集について理解を深めるとともに、大学の教育活動や公共図書館での活用のヒントを得てもらうことを目的としており、県内図書館関係者を中心に約15名の参加があった。

ウィキペディアタウンは、その街にある旧跡などの情報をウィキペディアの記事にしていく住民参加型イベントで、参加者が地域の魅力を再発見する機会となることが期待されるほか、確かな情報源を手軽に利用できる図書館を会場にする場合も多く、図書館の利用促進も期待される。県内では今回初めての開催となる。

当日は、オープンデータ京都実践会から講師を招き、ウィキペディアの概要や編集の基礎知識、図書館でウィキペディアタウンを行うことの意義や効果などについて説明を受けた後、グループに分かれて記事の編集を行った。編集した記事は、島根大学や郷土にゆかりのある教育者や文学者、近隣の史跡などで、参加者は図書館資料を参照しながら記事を作成していった。初めてウィキペディアを編集

するという参加者が多かったが、普段使う立場で見ることの多いウィキペディアを自ら編集し、さらなる活用の可能性を探る貴重な機会となった。今後は、県内公共図書館での開催も期待したい。

日時：2018（平成30）年3月9日（金）

場所：附属図書館（本館）ラーニングコモンズ

【2018年3月】



学術情報基盤整備計画

本学では、2001（平成13）年度から開始した「学術情報基盤整備計画」により、全学的な観点にたって複数の専門分野をカバーする外国雑誌を中心とした電子ジャーナル及び文献データベース等の計画的な整備を行っている。全学共通経費を主な財源としたこの整備計画は3年ごとに見直しを行い、2017（平成29）年は「第6期学術情報基盤整備計画（平成28-30年）」によって、電子ジャーナル約6,000タイトルに加えて、アクセス・ツールを継続して整備した。化学系、医学系など一部の専門分野固有の電子ジャーナルパッケージや個別タイトルについては、部局経費により契約し、利用に供している。

電子ジャーナルは、恒常的な価格上昇、為替レートの変動により、予算確保に苦慮している。本計画においては、全学共通経費及び間接経費（8割）、部局経費（2割）を充てているが、2017（平成29）年4月の人間科学部新設に伴い、部局間の負担割合見直しが必要となったため、各部局・機構等と協議を行い、2018（平成30）年度から見直すことが決定した。これにより、これまで負担のなかった機構組織にも購入経費を負担してもらうことになった。

1. 第6期学術情報基盤整備計画（概要）

（1）対象とする電子ジャーナル

本整備計画が対象とする電子ジャーナルは、複数の専門分野をカバーするパッケージとして提供されるものとする。

（2）バックファイル等電子資料の整備

年間契約する電子ジャーナルの対象範囲に含まれないバックファイルや電子ブック等の電子資料についても、国内の出版動向や他大学の整備状況を注視しながら、本計画において整備を進める。

（3）利用環境の整備

電子ジャーナル等を迅速・効率的に利活用するために必要なアクセス・ツール及び文献管理ツールの整備を継続して進める。大学構外からも電子ジャーナル等を利用できる環境の充実を図るとともに、携帯機器を用いた利用支援など、より一層の利便性向上に努める。

（4）導入経費等

本計画における電子資料の導入経費には、全学共通経費、部局経

費及び科学研究費間接経費等を充てる。また、出版者等との契約にあたっては、市場調査のほか、JUSTICE（大学図書館コンソーシアム連合）などの関係団体と連携しながら価格交渉を行う。

2. 第7期学術情報基盤整備計画（平成31-33年）の基本方針案の作成

2018（平成30）年1月に附属図書館運営会議の下に第7期学術情報基盤整備計画策定専門委員会を設置し、基本方針（案）の策定のほか、購読タイトル等の見直しを含め検討を行った。あわせて、電子ジャーナル等の利用に関するWebアンケート調査（調査期間：同年2月13日（火）から3月12日（月）まで）を実施した。このアンケート調査結果及び利用状況等を考慮して、第7期の基本方針（案）は、概ね第6期を踏襲させたものとなったが、予算配分方針等に大幅な変更があった場合には、その都度見直しを行うことにした。

第6期学術情報基盤整備計画で提供している電子ジャーナル・データベース等

2017（平成29）年

電子ジャーナル／データベース名称	タイトル数	概要	備考
Elsevier ScienceDirect	約2,400	Elsevier社発行のほぼすべての電子ジャーナル	
Wiley Online Library	約1,400	Wiley Online Library 収録の電子ジャーナル	
SpringerLink	約1,600	Springer社発行のほぼすべての電子ジャーナル	
Oxford Online Package	約300	Oxford University Press の電子ジャーナル	
JSTOR : Art Sci. I, Health & General Sci.	約150	学術雑誌バックナンバーのアーカイブ	
Nature	1	Nature Publishing Group発行の電子ジャーナル	2016（H28）本誌以外中止
PNAS	1	米国科学アカデミー発行の電子ジャーナル	
Science	1	アメリカ科学振興協会が発行する電子ジャーナル	
Cell	1	Cell Press が発行する電子ジャーナル	
Web of Knowledge(Web of Science + JCR)	-	自然科学・社会科学・人文学の世界代表ジャーナル・会議録・専門書を収録する引用文献データベース	
EJ Access Tools(Summon + 360LINK)	-	多様な電子リソースを横断的に検索可能なディスカバリーサービス及び電子リソース管理ツール	
Cambridge Online Package	約300	Cambridge Univ. Pressの電子ジャーナル	2016（H28）中止
ProQuest Research Library, Health and Medical Complete	約7,000	様々な学会・出版社の発行している電子ジャーナル	2016（H28）中止
Nature（関連4誌）	5	Nature Publishing Group発行の電子ジャーナル	2016（H28）中止
New England Journal of Medicine	1	マサチューセッツ内科外科学会発行の学術雑誌	2016（H28）中止／部局経費で継続
RefWorks（文献情報管理ツール）	-	文献情報管理および論文作成支援ツール	2016（H28）中止

研究開発室の活動状況

附属図書館研究開発室は、図書館業務及び図書館サービスの向上を図ることを目的として、室員が専門的な立場から図書館に関わる課題についての研究開発を行うために2006（平成18）年に設置された。2017（平成29）年度は、下表の体制により、戦略的機能強化推進経費の配分を受けて事業を行った。

2016（平成28）－2017（平成29）年度 室員名簿

委嘱名	所属・職名	氏 名	テーマ	委嘱名	所属・職名	氏 名	テーマ
室 長	館長	杉江 実郎	研究開発室の統括	副室長	医学図書館長	丸山理留敬	研究開発室の統括 (医学図書館関連)
顧 問	島根大学名誉教授	松尾 壽	記録史料（近世）	顧 問	島根大学名誉教授	常松 正雄	英米文学
室 員	法文学部教授	田中 則雄	和古書（国文学）	室 員	法文学部准教授	野本 瑠美	和古書（国文学）
室 員	法文学部教授	小林 准士	記録史料（近世）	室 員	元職員	加本 純夫	記録史料（近世）
室 員	教育学部教授	森本 直人	教科書データベース	室 員	教育学部教授	権藤 誠剛	教科書データベース
室 員	医学部教授	岩田 淳	西東文庫				

1. 桑原文庫の調査・研究

○室員

田中則雄（法文学部教授）
小林准士（法文学部教授）
野本瑠美（法文学部准教授）

桑原家より寄贈を受けた第2期寄贈分（2013〈平成25〉年度）及び第3期寄贈分（2014〈平成26〉年度）の整理を桑原羊次郎・相見香雨研究会の協力を得て引き続き進めた。

2. 教科書データベースの作成

○室員

森本直人（教育学部教授）
権藤誠剛（教育学部教授）

2013（平成25）年度から開始したデータベースの初期構築作業が、2017（平成29）年度はじめに完了したことを受けて、教科書コレクションを紹介する企画展示を開催した。

3. 西東文庫の調査・研究

○室員

岩田 淳（医学部教授）

2016（平成28）年度に引き続き、補修が必要な図書の内、特に緊急を要するものの補修を行った。

4. 「御用頭書」の解読及び研究

○室員

加本純夫（元図書館職員）
松尾 壽（研究開発室顧問／島根大学名誉教授）

「御用頭書」（松江市雑賀町の野津家所蔵）は、松江藩士羽山重樹による1862（文久2）年11月22日から1863（文久3）年8月23日までの日記である。所蔵者である野津隆氏（故人）による手書き解読原稿の文字起こしを行い、2017（平成29）年度も引き続き、校正作業を進めた。

5. デジタルアーカイブ・システム

○室員を置かず職員が対応する

新しい国際規格IIIF（トリプルアイエフ）に対応したデジタルアーカイブ・システムを2018（平成30）年1月に公開した。旧システムで学外に公開していた本学所蔵資料をクリエイティブコモンズ・ライセンス「表示4.0」（CC BY）での公開を開始した。このライセンス表示により、従来、コンテンツの利用にあたって許諾が必要であったが、自由な利用が可能となった。

他機関等の所蔵資料及び本学所蔵資料のうち、公開範囲に制限をかけているコンテンツについては、順次、アーカイブへの登録を進める予定である。

6. 資料のデジタル化

○室員を置かず職員が対応する

2016（平成28）年度に策定した「附属図書館史料資料デジタル化方針」（平成28年12月15日附属図書館運営会議承認）、に従って資料のデジタル化を進めた。「デジタル化方針」で計画していたデジタル化件数の3年分のデジタル化が可能な戦略的機能強化推進経費が措置されたことに伴い、約1,600冊をデジタル化した。

・桑原文庫：1,608冊（主要な史料の84%）

地域コミュニティラボ

地域コミュニティラボは、オールしほねCOC+事業の「しほねクリエイティブラボネットワーク」の一つとして、附属図書館本館の展示室を利用して2017（平成29）年1月に開設されたものである。地域では、地元企業や行政機関、NPO法人など様々な団体が多彩な活動を行っており、これらの団体の活動や成果を、学生や大学を訪れた市民が大学内において身近に触れることができる場が地域コミュニティラボである。ラボの展示をとおして、本学の学生・教職員や市民がこれまで以上に地域に目を向けて、地元の各種の団体の活動に関心をもつきっかけとなり、これらの団体の活動を身近に知ってもらうことを目的としている。2017（平成29）年度は、5回のラボ展示を行い、延べ3,631人の来場者があった。以下、5回の展示を概観する。

1. 「ご縁の国しほね」展（出展者：島根県観光振興課）

（1）展示期間

2017（平成29）年7月1日（土）～17日（月）

（2）展示内容

4月から島根に住み始めた新入生を主なターゲットとして島根の良さを伝えようと企画したもので、島根県が展開する観光振興キャンペーン「ご縁の国しほね」と連動して、出雲・石見・隠岐のそれぞれの地域の特徴ある資料の展示を行った。

2. 「三江線へのまなざし」展（出展者：三江線沿線魅力化プロジェクト、ハーベスト出版（株式会社谷口印刷）、島根大学法文学部山陰研究センター）

（1）展示期間

2017（平成29）年10月24日（火）～11月6日（月）

（2）展示内容

島根県江津市と広島県三次市を結ぶローカル鉄道の三江線は、平成29年度末で廃線となることが決まり、改めてその価値や沿線地域を見直す取組が活発になってきた。本学の教員と学生がそれぞれ関係して出版された三江線についての2冊の書籍、『三江線BOOK』及び『三江線の過去・現在・未来』をもとにパネル展示を行った。関連イベントとして、図書館コンシェルジュによる「ラーコモカフェ」を開催し、『三江線BOOK』を執筆した学生4人をゲストスピーカーに迎えて、トークセッションを行った。

3. 「木の匠—木匠展 in 島根大学」（出展者：木匠会）

（1）展示期間

2017（平成29）年11月8日（水）～19日（日）

（2）展示内容

中国山地の豊かな森林資源に恵まれた島根県では、古くから木工の技術が発達してきた。本展では、島根県の東部地域を中心に創作活動を行う作家グループ「木匠会」と協働して、木工作品の展示を行った。指物・刳物・挽物・曲物・彫物といった様々な工芸品から、「木の匠」たちの精緻で奥深い木工芸の世界に触れることができた。関連イベントとして、出展者によるギャラリートークを行った。

4. 「海と生きた民、技、そして祈り—島根歴史民俗資料館収蔵漁具展—」（出展者：島根歴史民俗資料館・島根公民館〈町誌を読む会〉）

（1）展示期間

2018（平成30）年1月17日（水）～30日（火）

（2）展示内容

日本海に面した島根半島の浦々では、古くから多様な漁業技術が発達してきた。島根歴史民俗資料館の収蔵品より、江戸時代から昭和初期まで松江市島根町で実際に使用されていたサンバ船（模型）、釣り針、網等の漁具、船玉や竜神船といった海の信仰にかかわる民

具を中心に、漁労習俗に関連する資料を展示した。島根歴史民俗資料館は現在閉鎖されているため、実際の展示品を見ることができない貴重な機会となった。関連イベントとして、本学教員によるギャラリートークを行った。

5. 「明治時代の島根の文学—島根の文学あり方研究会の調査から—」（出展者：島根の文学あり方研究会・島根県立図書館）

（1）展示期間

2018（平成30）年2月1日（木）～16日（金）

（2）展示内容

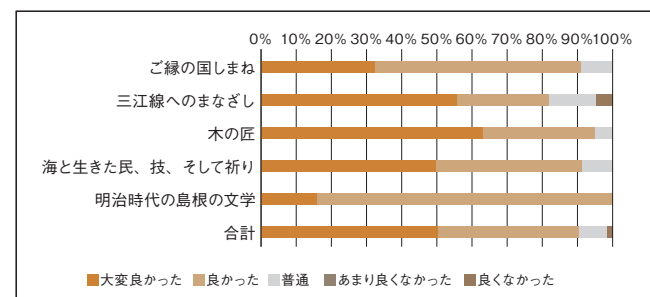
島根は、近代以降、森鷗外や島村抱月などの著名な文人を多数輩出するとともに、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）や島崎藤村、志賀直哉、松本清張などの多くの著名な文人が来訪し、島根固有の風土や歴史を題材にした文学作品を多数残しており、関連する文学資料が残されている。こうした島根ゆかりの貴重な文学資料を散逸させることなく、県民全体の財産として次代へ継承していくために、島根県は「島根の文学あり方研究会」を設置し、文学資料の収集・保存・活用のあり方を検討してきた。本展では、「島根の文学あり方研究会」のこれまでの調査の成果の中から、「明治時代の島根の文学」に関連する資料を展示した。

6. 来場者数及びアンケート結果

各展示の来場者数及び1日平均来場者数は次の表のとおりである。

展示名称	展示 日数	来場 者数	1日平均来場者数		
			平日	休日	全期間
ご縁の国しほね	17	980	74.2	29.7	54.4
三江線へのまなざし	14	686	64.7	26.0	52.8
木の匠	12	409	46.5	9.25	34.1
海と生きた民、技、そして祈り	14	1,202	104.6	39.0	85.9
明治時代の島根の文学	16	354	26.1	10.3	22.1
合計	73	3,631	61.1	23.5	49.7

また、満足度を尋ねたアンケートの集計結果を次のグラフに示す。全体で「大変良かった」「良かった」の合計が90%を超えており、満足度が高いことが伺える。



社会貢献 ―学術情報の提供をとおして―

附属図書館は、所蔵資料等の提供をとおして様々な形での社会貢献活動を行っている。すなわち、県内の図書館ネットワークによる圖書の貸出や古典籍等の資料の展示貸出、出版物への掲載や放映のための資料提供などである。さらに、古典籍等の学術的資料を活用した企画展示や関連するシンポジウムを開催することによって、わかりやすい形での学術情報の提供に努めている。ここでは、2017（平成29）年度に開催した企画展示を中心に報告する。

1. 「江戸カー献立いろいろ」展

出雲大社近くにある美術館「手銭記念館」（出雲市大社町）のコレクション展「江戸カー献立いろいろ」を開催した。この企画展は、同館と本学法文学部山陰研究センター及び附属図書館が連携して取り組んでいる「出雲文化活用プロジェクト」（文化庁助成事業）の今年度の事業の一つとして実施したものである。同じ県内にあるとはいえ、本学の学生や教職員が同館を訪れる機会は少なく、同館が収蔵する特色ある資料を見てもらおうと、コレクション展を昨年度から実施している。

2回目となる今年度の展示は、造り酒屋を営む傍ら町役や藩の御用宿などを勤めていた手銭家に伝わる古文書の中から、御用宿としてのもてなしや、冠婚葬祭の際に出された料理の献立が記された記録、松江藩七代藩主・松平治郷（不昧公）の隠居後の茶会記を写した資料などを実際に使われた器とともに展示した。

また、献立の記録をもとに料理を再現して試食するワークショップも毎年開催しており、開催期間中には別会場で料理ワークショップ「初夏の茶懐石」が開催された。同館学芸員佐々木杏里氏によるギャラリートークも開催され、参加した約20名の市民や教職員、学生は古文書の記録から読み取れるおもてなしの際の気配りや苦労など、興味深い話に耳を傾けた。

期間：2017（平成29）年6月3日（土）～25日（日）

場所：附属図書館（本館）展示室

主催：出雲文化活用プロジェクト（手銭記念館／法文学部山陰研究センター／附属図書館）



2. 「島根大学教科書コレクションにみる教科書のあゆみ」展

島根大学附属図書館は、島根師範学校や旧制松江高等学校、島根農科大学などの本学の前身校から受け継いだ教科書を中心に、約22,700冊の教科書コレクションを収蔵している。2013（平成25）年度からデータベース化に取り組んできたところ、2017（平成29）年度ははじめにデータベース化の作業が完了したことから、教科書コレクションを紹介する企画展を開催した。

本展は、学制が公布された1872（明治5）年から昭和30年代半ばの第3次学習指導要領改訂の頃までを年代の範囲として、この間の学校制度の変遷と関連付けながら教科書のあゆみをたどった。主に初等教育で使用された教科書を取り上げて、教科書が時代の流れの中でどのように影響を受けながら変わってきたのかを展示をとおして提示した。

展示期間中に、職員による展示解説と教科書コレクションを置いている書庫ツアーを2回開催し、合わせて20人の参加があった。

期間：2017（平成29）年10月10日（火）～22日（日）

場所：附属図書館（本館）展示室

主催：附属図書館



3. 「戦争と平和を考える2017ー記録された戦争体験ー」展

島根大学附属図書館は、戦争や平和に関する資料の展示を通して理解を深め、自由な議論の場を提供することを目的として2014（平成26）年より毎年継続して同展を開催してきたが、今年度は「戦争と平和を考える2017ー記録された戦争体験ー」のテーマで開催した。

今回は、地域の戦争体験をより深く知るために、近隣の公共図書館や公共施設から県内の戦争体験記や当時の「のぼり」、軍人手帳、従軍日記などを借受け、合計約90点を展示し、期間中およそ640人が来場した。

また本学では近年、教養科目として「平和学」が開講され、多くの学生が受講していることから、この授業と連携し、担当教員からの推薦図書もあわせて展示した。

関連イベントとして、2回にわたって開催したギャラリートークでは、本学名誉教授の吉野蕃人氏と常松正雄氏よりそれぞれシベリア抑留体験と勤労動員の体験について話をいただいた。ギャラリートークはあわせて30人の来場者があり、活発な質疑応答が行われた。資料展示に加え、当時の過酷な重労働や思想の統制などの体験談から、あらためて戦争と平和を考える貴重な機会となった。

期間：2017（平成29）年11月27日（月）～12月22日（金）

場所：附属図書館（本館）展示室

主催：附属図書館



医学図書館の講習会戦略

医学図書館では、文献検索データベースのWeb版や、電子ジャーナルが利用できるようになった2002（平成14）年度頃から、学部学生の学術情報リテラシー教育に力を入れ、学部学生全員が講習会を受講することができるよう取り組んできた。現在では、学部学生や大学院生に加え、臨床研修医や看護職員など医療現場に携わる職員への講習にも力を入れている。

2017（平成29）年度には、学術情報リテラシーの学科・学年ごとの修得目標にそった標準プログラムを作成し、ホームページ上で公開した。2017（平成29）年度の講習会実施回数は34回、参加人数はのべ731名である。以下、2017（平成29）年度に実施したオリエンテーションと講習会について概要を紹介する。

1. 医学科

（1）背景：

それまでも3年生と5年生の希望者を対象に、医中誌Web、PubMed、電子ジャーナルの利用講習会を実施していたが、より効率的に行うため、2004（平成16）年度から3年生の講座配属時（学生が希望する講座で研究の基本を学び、研究に参加したり症例の解説を受けたりすることができる）に、担当教員の依頼を受けて実施するようになった。2015（平成27）年度からは学務課と連携し、授業「英語論文読解」の1コマに実施することで3年生全員が受講できる体制になった。2017（平成29）年度は、学生への聞き取りを踏まえて、実施時期を臨床実習前の4年生の2月に変更した。

（2）1年生：

7月に、早期体験実習オリエンテーションの1コマを使い、医中誌Webの基本的な使い方について実習を行った。UP to Date、Mindsなどの臨床系データベースについて簡単な紹介をした。

（3）4年生：

2018（平成30）年2月の臨床実習入門特別プログラムで文献検索講習会を実施した。臨床実習の現場で遭遇する場面を想定して具体的なテーマを提示し、医中誌WebとPubMedの実習を行った。

（2）（3）いずれも実習の最後に課題を出し、理解度を把握している。

2. 看護学科

（1）背景：

2000（平成12）年度から看護学科の授業に関わっている。2009（平成21）年度までは、2年生の授業「看護研究の基礎」と3年生の授業「原書講読」の1コマを担当し、2010（平成22）年度からは、3年生の授業「看護研究方法論」で、医中誌Webと電子ジャーナルの使い方を講義している。講習会を授業と関連づけて行うことは、学生の目的意識を高めることができるため、より学修効果が期待できるのではないかと考えている。

（2）1年生：

4月に、授業「看護学入門セミナー」で出されるレポートの課題に関する文献を探すことができるよう、OPACと医中誌Webの使い方について実習を行った。この講習会は入学後早い時期に実施するため、図書館利用の動機づけになっている。

（3）3年生：

5月に行われる授業「看護研究方法論」は、卒業研究に必要な文献の検索ができるようになることを目的に、医中誌Webの実習に重きを置く。シソーラスの概念なども紹介し、やや高度な検索にも対応できるようにしている。

3. 大学院生

大学院1年生の希望者には毎年春に図書館ガイダンスを実施している。

2017（平成29）年度は、図書館ガイダンスに参加した看護学専攻の大学院生や担当教員からの要望を受け、EndNote basicの講習会及び、授業「看護研究方法演習」において検索ツールの紹介を主とする講習会を行った。

4. 臨床研修医

5月、卒後臨床研修センター主催の研修会において、担当教員と図書職員の2人を講師とし、研修現場で実際に行われるやり取りや、文献検索が必要になる場面を紹介しつつ、各検索ツールの紹介を行った。

5. 看護職員

医中誌Webの利用方法と、引用・参考文献の書き方についての講習会を、4月～8月は月2回、10月～2018（平成30）年2月は月1回開催した。これは、臨床看護研究を支援するため、2017（平成29）年度より新たに始めた講習会である。受講受付や、講習会場の予約など、看護部の協力を得ている。

6. その他のオリエンテーション、講習会

上述の講習会等以外にも、要望に応じて適宜開催している。

4月に学務課や看護部が主催する全員参加のオリエンテーションで、医学科と看護学科の新入生や、新任のコメディカルと看護師に図書館の利用方法を紹介した。

また、10月には外部講師を招いてWeb of ScienceとEndNote basicの講習会を開催した。主に大学院生、臨床研修医、教職員が参加し、好評を博している。



図書館コンシェルジュの活動

「図書館コンシェルジュ」とは、学生スタッフが職員と協働し、附属図書館におけるピアサポートを進めるとともに、学生の視点によるサービスの改善等を目的とする取り組みである。こうした取り組みは広く学生協働と呼ばれ、本学では、教育推進センター（旧称：教育開発センター）の協力のもと全学のピアサポートプログラム（正課PSP）の一環として、2010（平成22）年度より行っている。2017（平成29）年度は前年度の経験者17名を含む31名が図書館コンシェルジュとして活動を行った。

2017（平成29）年度は、前年度に引き続き「自主企画活動」および「利用サポート活動」の二つを柱とし、「学生協働交流シンポジウム」への継続参加のほか、図書館総合展で開催された「全国学生協働サミット」やオールしまねCOC+事業として開催された「しまね大交流会2017」へも参加し、活動内容についてコンシェルジュが発表を行っている。

1. 自主企画活動

自主企画活動とは、コンシェルジュが自主的に企画を立案し実行するものであるが、企画内容に応じて職員も関わりながら協働により実施する場合もある。2015（平成27）年度以降、全体を「イベントチーム」「展示・グッズチーム」「広報チーム」という3つのチームに分け、それぞれのチームの特性に応じた企画を実施している。

〈イベントチーム〉

- ・ラーコモカフェ
- ・ただ日本語で話すだけ@ラーニングcommons
- ・ライブレター
- ・科学道100冊フェア など

〈展示・グッズチーム〉

- ・ブック★コンパス（図書の企画展示）
- ・ブックカバー作成・設置
- ・館内飾りつけ（七夕／ハロウィン／冬）
- ・「松江市立中央図書館の団体貸出」を利用した選書・展示

〈広報チーム〉

- ・季刊広報誌LiMeの編集・発行
- ・LiMeボード

その他、チーム横断的な企画として、オープンキャンパスにおいてスタンプラリー、資料展示などを行った（8/5、8/6）。

上記のうち、学内の他部局や学外機関等と連携して行ったものおよび2017（平成29）年度に初めて行ったものを紹介する。

「ラーコモカフェ」は、学生たちが普段あまり話す機会のない学内外の様々な人々をプレゼンターとして附属図書館のラーニングcommonsに招き、聴き手との対話を通じた交流を行うことを目的とした企画で、2017（平成29）年度は計3回開催した。

第5回（7/5） ゲスト：藤田理事

第6回（11/1） ゲスト：『三江線BOOK』を執筆した学生

第7回（1/24） ゲスト：附属図書館職員

「科学道100冊フェア」は、科学道100冊委員会（理化学研究所・編集工学研究所）が推奨する100冊を通して科学者の考え方や科学のおもしろさ、素晴らしさを様々な人に伝える事業である。利用者からの要望を受けてコンシェルジュが企画したもので、2017（平成29）年度に初めて行った。100冊のうち附属図書館で所蔵していた39冊を展示し、4か月半の展示期間（7/12から11/1）で、合計57回の貸出があった。

2. 利用サポート活動

利用サポート活動は、主に附属図書館のカウンターにおいて図書館の使い方や資料の探し方など利用者からの質問等に対応するもので、正課PSPによる予算支援を受けて行っている。この活動の意義は次に挙げる2点である。1点目は、図書館の利用者、特に学生に対して、コンシェルジュが応対することで質問をしやすい環境を提供することができる。2点目は、コンシェルジュにとって、利用者の質問に対応することで、自身の知識を増やし、スキルを高める機会となる。

利用サポート実施状況 2017（平成29）年度

月	活動可能 日数	A)活動可能 コマ数	B)活動した コマ数	実施率 (B/A)	C)質問 件数	コマ当たり 質問件数(C/B)
4月	17	68	25	36.8%	30	1.2
5月	20	80	44	55.0%	50	1.1
6月	22	88	51	58.0%	39	0.8
7月	28	112	46	41.1%	25	0.5
8月	7	28	12	42.9%	4	0.3
10月	21	84	8	9.5%	8	1.0
11月	20	80	16	20.0%	45	2.8
12月	16	80	57	71.3%	41	0.7
1月	18	90	67	74.4%	69	1.0
2月	7	35	1	2.9%	3	3.0
合計	176	745	327	43.9%	314	1.0

3. 学生協働交流シンポジウムへの参加

このシンポジウムは、様々な大学の図書館で活動する学生協働スタッフが各大学の取り組みを共有し、交流する場として2011（平成23）年より毎年開催されている。2017（平成29）年は7回目となり、9月5日（火）、9月6日（水）に愛媛大学で開催された。参加した大学数は32、参加人数は159人に上った。

4. 全国学生協働サミットへの参加

全国の大学図書館における学生協働の取り組みについて学生・教職員が報告・意見交換を行うもので、第1回目だった前年度に続き本学からも参加した。コンシェルジュ2名、職員1名が参加し、活動の報告を行った。

日時：2017（平成29）年11月7日（火）

会場：パシフィコ横浜

5. しまね大交流会2017への参加

オールしまねCOC+事業として開催された「しまね大交流会」において、コンシェルジュがポスター展示を行った。

日時：2017（平成29）年11月18日（土）

場所：松江くびきメッセ

図書館日誌 (2017.4～2018.3)

年月日		事 項
2016年 4月 1日	共通 共通 医学図書館	組織再編により、所管名称が学術国際部から企画部に変更 電子的学術コンテンツの国際アーカイブ事業「CLOCKSS (クロックス)」に参加 セミナー室に電子黒板を導入
4月12日	本館	新任職員向け図書館ガイダンスを実施
4月22日	本館	ワークショップ「中四国旧石器遺跡マッピングパーティー」を共催（会場：本館1階ラーニングcommons 主催：日本旧石器学会データベース委員会、本学法文学部山陰研究センター）
5月 9日	共通	データベース紹介サイト「来たぞ！データベース戦隊」を公開
5月15日	共通	島根大学学術情報リポジトリ「SWAN」リニューアル
5月23日	本館	雑誌無料提供会を実施（5月24日まで）
5月29日	共通	島根県大学・高等専門学校図書館協議会総会（会場：本館3階多目的室）
5月31日	本館	松江市移動図書館車による本学への巡回開始
6月 1日	共通 本館	第1回附属図書館運営会議 第1回附属図書館本館運営会議
6月 3日	本館	企画展「江戸カ・献立いろいろ」を開催（共催：手銭記念館、本学法文学部山陰研究センター 6月25日まで）
6月 6日	医学図書館	講座事務担当者向け講習会（6月7日まで）
6月12日	医学図書館	第1回附属図書館医学図書館運営会議
6月27日	本館	ワークショップ「古文書・古典籍の保存継承について考える」を開催（共催：本学法文学部山陰研究センター、本学古典籍アカデミー、島根県大学・高等専門学校図書館協議会）
6月29日	医学図書館	図書館購読雑誌に関するアンケート調査を実施（7月18日まで）
6月30日	本館	蔵書リユース市を開催（7月3日、4日も）
7月 1日	本館	地域コミュニティラボ展示「ご縁の国しまね」（共催：島根県 7月17日まで）
7月14日	共通	島根県図書館協会総会（会場：島根県庁）
7月16日	本館	シンポジウム「地域とつながる人文学の挑戦-山陰の文学・歴史学・考古学研究から考える-」を開催（場所：本学大学会館3階大集会室、共催：本学法文学部山陰研究センター、本学古典籍アカデミー、本学ミュージアム、本学地域未来戦略センター）
8月 7日	医学図書館	蔵書点検（8月10日まで）
9月 4日	本館	蔵書点検（9月7日まで）
9月 5日	医学図書館 本館	中学生2名が職場体験（9月7日まで） 第7回学生協働交流シンポジウムに図書館コンシェルジュが参加（会場：愛媛大学 9月7日まで）
9月20日	医学図書館	中学生2名が職場体験（9月22日まで）
9月27日	共通	第2回附属図書館運営会議
10月 2日	本館	中学生2名が職場体験（10月6日まで）
10月10日	本館	企画展「島根大学教科書コレクションにみる教科書のあゆみ」（10月22日まで）
10月20日	共通	記者会見（附属図書館アンケートシステムの個人情報漏えいの可能性について）
10月24日	本館	地域コミュニティラボ展示「三江線へのまなざし」（共催：三江線沿線魅力化プロジェクト、本学法文学部山陰研究センター、ハーベスト出版 11月6日まで）
11月 7日	本館	第2回全国学生協働サミットに図書館コンシェルジュ2名が参加（会場：パシフィコ横浜 第19回図書館総合展）
11月 8日	本館	地域コミュニティラボ展示「木の匠-木匠展in島根大学-」（共催：木匠会 11月19日まで）
11月16日	医学図書館	第53回日本医学図書館協会中国・四国地区会総会を開催（会場：島根大学医学部看護学科棟3階会議室 11月17日まで）
11月18日	共通	しまね大交流会2017に2ブースを出展
11月24日	医学図書館	第26回島根県医療関係機関等図書館（室）懇談会総会（会場：松江市立病院がんセンター3階講堂）
11月27日	本館	企画展「戦争と平和を考える2017-記録された戦争体験-」を開催（12月22日まで）
12月13日	本館	学生選書ツアーを実施
2018年 1月 4日	本館	資料整備担当を図書担当と雑誌担当へ名称変更
1月17日	本館	地域コミュニティラボ展示「海と生きた民、技、そして祈り-島根歴史民俗資料館収蔵漁具展-」（共催：島根歴史民俗資料館、島根公民館（町誌を読む会）、加賀まるごと博物館 1月30日まで）
1月18日	共通	図書館利用実態調査を実施（3月15日まで）
1月30日	共通	デジタルアーカイブをリニューアル（IIIFへの対応等）
2月 1日	本館	地域コミュニティラボ展示「明治時代の島根の文学-「島根の文学あり方研究会」の調査から-」（共催：島根の文学あり方研究会、島根県立図書館、本学法文学部山陰研究センター、本学地域未来戦略センター 2月16日まで）
2月 7日	共通	第1回第7期学術情報基盤整備計画策定専門委員会
2月13日	共通	電子ジャーナル等に関するアンケート調査を実施（3月12日まで）
3月5日	共通	第2回第7期学術情報基盤整備計画策定専門委員会
3月 9日	本館	イベント「ウィキペディアタウン-地域資料をつかってウィキペディアの記事を編集しよう-」を開催（共催：松江市立図書館、島根県立図書館）

雑誌等での発表・報告

年 月	氏 名	タイトル	掲載誌等
2017年12月	佐 藤 陽 子	初学者向けデータベース紹介サイト「来たぞ！データベース戦隊！」制作記	医学図書館. 64 (4) , 2017.12
2018年 3月	矢 田 貴 史	全国遺跡報告総覧について	専門図書館. 288, 2018.3
2018年 3月	昌 子 喜 信	コラム デジタル化の実践紹介：山陰地域の史資料のデジタル化と公開	地域とつながる人文の挑戦. 今井印刷, 2018.3
2018年 3月	昌 子 喜 信	教科書データベース初期構築の完了と企画展示「島根大学教科書コレクションにみる教科書のあゆみ」	沁雲. No.20, 2018.3
2018年 3月	昌子 喜信ほか	地域コミュニティラボー地域の情報を発信する展示スペースー	沁雲. No.20, 2018.3
2018年 3月	小 林 奈緒子	2017年度島根大学附属図書館企画展示「戦争と平和を考える2017ー記録された戦争体験ー」実施報告	沁雲. No.20, 2018.3

講師等

年月日	氏 名	発表タイトル等	研修会名等（会場）
2017年 4月22日	矢 田 貴 史	しまね地域資料リポジトリ・全国遺跡報告総覧の現況	ワークショップ「中・四国旧石器遺跡マッピングパーティー」（島根大学）
2017年 8月 9日	杉江 実郎 館長	昨今の大学図書館の使命	平成29年度島根県高等学校図書館研究会総会・研究大会（安来高等学校）
2017年 9月 8日	矢 田 貴 史	学術雑誌・電子ジャーナルの特徴と契約業務等	第7回中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー（鳥取大学）
2017年11月17日	佐 藤 陽 子	看護師を対象とした文献検索講習会（事例報告）	第53回日本医学図書館協会中国・四国地区会総会（島根大学）
2017年11月24日	山 崎 月 子	オープンアクセスについて	第26回島根県医療関係機関等図書館（室）懇談会総会（松江市立病院）
2018年 1月17日	昌 子 喜 信	しまね地域資料リポジトリについて	郷土資料モニター連絡会議（浜田教育センター）
2018年 1月19日	昌 子 喜 信	しまね地域資料リポジトリについて	郷土資料モニター連絡会議（島根県立図書館）
2018年 2月20日	青 柳 和 仁	温湿度データロガーでカビ対策を計画的に	平成29年度国立大学図書館協会中国四国地区協会助成事業ワークショップ（岡山大学）
2018年 3月16日	昌 子 喜 信	しまね地域資料リポジトリGO-GURaについて	山口県図書館協会研修会（山口大学）

報道

事 項	掲 載 紙
医学図書館看護職員向け講習会開始	カレントアウェアネス（2017/4/25）
データベース紹介サイト「来たぞ！データベース戦隊！」公開	カレントアウェアネス（2017/5/10）、文教ニュース（2017/6/12）
ワークショップ「古文書・古典籍の保存継承について考える」開催	カレントアウェアネス（2017/6/8）
企画展「江戸力：献立いろいろ」開催	読売新聞（2017/6/11）、山陰中央新報（2017/6/17）、文教ニュース（2017/7/24）
蔵書リユース市の開催	山陰中央新報/NHK/山陰ケーブルテレビジョン(2017/6/30)、朝日新聞(2017/7/3)、文教ニュース(2017/7/31)
新入生・新任教職員向けの図書館ガイダンス	文教ニュース（2017/7/10）
松江市立図書館の移動図書館車が巡回開始	文教ニュース（2017/7/10）
企画展「ご縁の国しまね」開催	文教ニュース（2017/9/25）
企画展「教科書のあゆみ」開催	山陰中央新報（2017/10/18）
セキュリティインシデントに関する記者発表	山陰中央新報/読売新聞/島根日日新聞/中国新聞(2017/10/20)、NHK(2017/10/21)
企画展「三江線へのまなざし」開催	山陰中央新報（2017/11/8）
企画展「戦争と平和を考える2017」開催	NHK(2017/11/28)、読売新聞（2017/12/7）
企画展「海と生きた民・技・そして祈り」開催	山陰中央新報（2018/1/18、2018/1/25）
デジタルアーカイブのリニューアル	カレントアウェアネス（2018/1/31）
企画展「明治時代の島根の文学」開催	NHK（2018/2/6）、読売新聞（2018/2/8）

図書館の動向

刊行物

2017年 7月	島根大学附属図書館年報2016
2018年 3月	島根大学附属図書館報「沁雲」第20号
毎 月	医学図書館ニュース「インフォ・アクセス」(Vol. 13, No. 4～Vol. 14, No. 3)
季 刊	本館ニュース「LiMe：ライム」(図書館コンシェルジュ編集・発行)

研修

名称(参加者)	期 間
第8回教育ITソリューションEXPO(青柳 和仁)	2017年 5月17日～19日
平成29年度大学図書館職員長期研修(矢田 貴史)	2017年 7月 2日～14日
大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー(佐藤 陽子)	2017年 9月 7日～ 8日
平成29年度図書館等職員著作権実務講習会(佐藤 陽子)	2017年 9月27日～29日
京都大学図書館機構講演会「デジタルアーカイブの新たな展開と可能性」(青柳 和仁)	2017年10月18日～19日
第58回中国四国地区大学図書館研究集会「図書館業務 誰が担う? どう担う?」(錦織 亜希子)	2017年10月19日～10月20日
平成29年度国立大学法人島根大学新採用者フォローアップ研修(佐藤 陽子、田中 やよい)	2017年12月21日～12月22日
平成29年度管理職研修(舟本 幸福)	2018年 3月 5日

人事異動

【2017(平成29) 年 4月 1日発令】

氏 名	異 動 後	異 動 前
舟 本 幸 福	採用 企画部図書情報課長	広島大学社会産学連携室図書館部学術情報普及GL
米 田 政 子	再雇用更新 企画部図書情報課再雇用職員(医学情報G)	学術国際部図書情報課再雇用職員(医学情報G)
錦 織 亜希子	配置変 企画部図書情報課図書職員(企画・整備G資料整備担当)	学術国際部図書情報課図書職員(医学情報G)
田 中 やよい	配置変 企画部図書情報課図書職員(医学情報G)	学術国際部図書情報課図書職員(情報サービスG)

【2017(平成29) 年 5月 1日発令】

氏 名	異 動 後	異 動 前
福 井 智 子	採用 企画部図書情報課係員(情報サービスG資料利用担当)	

【2018(平成30) 年 3月31日発令】

氏 名	異 動 後	異 動 前
山 本 真 紀	退職(再雇用:島根大教育学部・人間科学部)	企画部図書情報課係長(総務・会計担当)
足 立 美 加	退職(出向復帰)(鳥取大学研究推進部図書館情報課)	企画部図書情報課係長(情報サービスG学術情報担当)
中 井 陽 子	退職	企画部図書情報課(企画・整備Gコンテンツ担当)
福 井 智 子	退職	企画部図書情報課(情報サービスG資料利用担当)

■基本統計：2017(平成29)年度データ

			本館 (松江キャンパス)	医学図書館 (出雲キャンパス)	合 計
開 館 日 数	平 日		232	240	
	土 ・ 日 ・ 祝 日		72	91	
	合 計		304	331	
利 用 対 象 者 数 (2017年5月1日現在)	教 職 員		2,976		2,976
	学 生		4,976	1,189	6,165
	学 外 者		715	106	821
	合 計				9,962
入 館 者 数	学 生 ・ 教 職 員		307,226	135,156	442,564
	学 外 者		10,920	260	10,998
	合 計		318,146	135,416	453,562
貸 出 冊 数	学 生		55,564	13,694	69,258
	教 職 員		5,809	2,171	7,980
	学 外 者		4,523	243	4,766
	合 計		65,896	16,108	82,004
蔵 書 冊 数 (2017年3月31日現在)	和 漢 書		678,104	72,395	750,499
	洋 書		157,690	66,191	223,881
	合 計		835,794	138,586	974,380
図 書 受 入 冊 数	和 漢 書	購 入	7,811	1,760	9,571
		寄贈・その他	4,916	174	5,090
		計	12,727	1,934	14,661
	洋 書	購 入	328	187	515
		寄贈・その他	256	7	263
		計	584	194	778
	合 計		13,311	2,128	15,439
雑 誌 所 蔵 種 類 数	和 雑 誌		8,686	1,840	10,526
	洋 雑 誌		2,919	1,731	4,650
	合 計		11,605	3,571	15,176
雑 誌 受 入 種 類 数	和 雑 誌	購 入	534	122	656
		寄贈・その他	948	218	1,166
		計	1,482	340	1,822
	洋 雑 誌	購 入	83	17	100
		寄贈・その他	13	27	40
		計	96	44	140
	合 計		1,578	384	1,962
資 料 費 (千円)	図 書		17,311	5,488	22,799
	雑 誌		6,286	3,062	9,348
	小 計		23,597	8,550	32,147
	デ ー タ ベ ー ス		6,649		6,649
	電 子 ジャ ー ナ ル 経 費 ^{*1}		98,309		98,309
	電 子 ジャ ー ナ ル (戦 略 ^{*2})		659		659
	合 計				149,878
文 献 複 写 件 数	受 付		784	975	1,759
	国 内 依 頼		1,638	727	2,365
	海 外 依 頼		0	0	0
現 物 貸 借 件 数	貸 出		571	28	599
	借 受		419	2	421

*1 学術情報基盤整備計画（P.8参照）にかかる経費相当分

*2 戦略的機能強化推進経費（外国語教育強化）での契約分

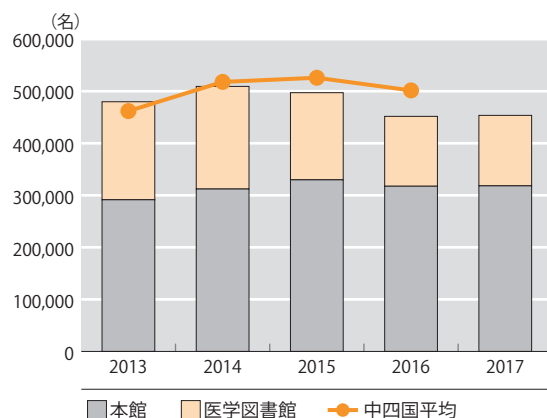
統計

利用者

■入館者数

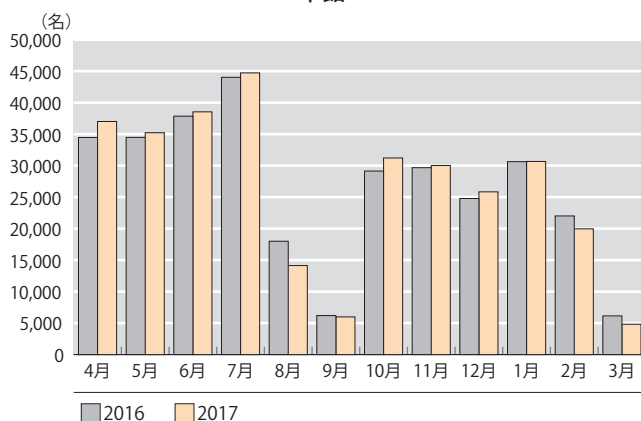
		2013	2014	2015	2016	2017
本館	学 生	271,653	290,934	309,620	297,697	297,613
	教 職 員	9,427	10,705	9,659	9,921	9,613
	学 外 者	10,319	10,403	10,427	9,788	10,920
	小 計	291,399	312,042	329,706	317,406	318,146
医学図書館	学生・教職員	187,988	196,834	167,042	134,017	135,156
	学 外 者	348	359	418	260	260
	小 計	188,336	197,193	167,460	134,277	135,416
合 計		479,735	509,235	497,166	451,683	453,562
中 四 国 平 均		461,860	517,860	525,830	501,500	-

※中四国平均は、「日本の図書館：統計と名簿」（日本図書館協会編）に掲載の中国四国地区国立大学のうち、島根大学と同規模校（学部数2～7学部）7校（広島・岡山・鳴門教育大学を除く）の平均値を用いた。（以下同様）

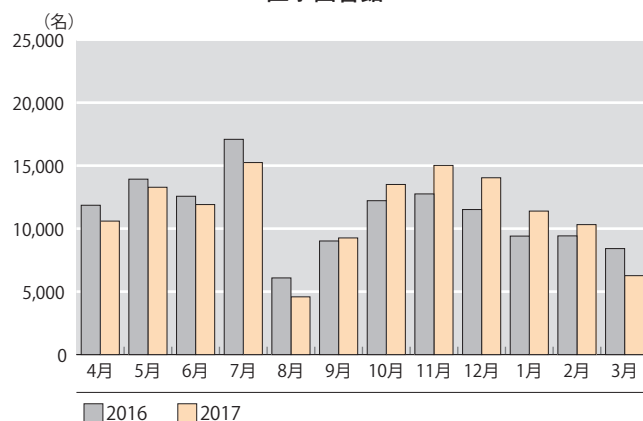


■月別入館者数

本館



医学図書館



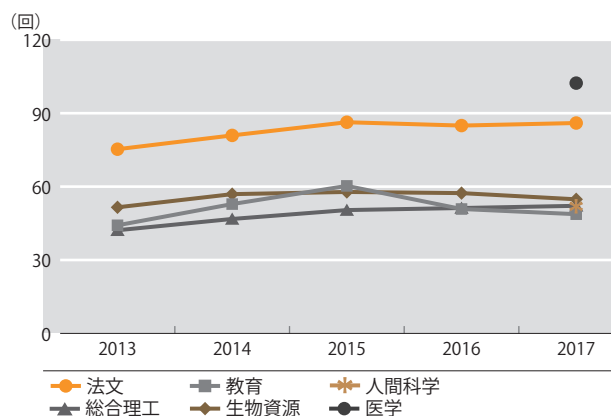
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本館	2016	34,468	34,486	37,856	44,020	17,998	6,194	29,140	29,674	24,781	30,630	22,013	6,146
	2017	37,008	35,227	38,539	44,722	14,135	5,988	31,213	30,024	25,836	30,663	19,969	4,822
医学図書館	2016	11,855	13,926	12,569	17,088	6,087	9,019	12,217	12,755	11,515	9,407	9,424	8,415
	2017	10,597	13,283	11,910	15,244	4,585	9,261	13,504	15,019	14,037	11,392	10,318	6,266

■学生1人あたりの年間平均来館回数（本館）

学部	2013	2014	2015	2016	2017
法 文	75.29	80.93	86.31	84.95	85.99
教 育	44.19	52.86	60.29	50.85	48.73
人間科学	-	-	-	-	52.50
総合理工	42.17	46.78	50.41	51.25	52.15
生物資源	51.54	56.92	57.81	57.34	54.81
医 学	-	-	-	-	102.30

※2017年度より人間科学部が新設された

※医学図書館は2017年4月3日から入館ゲートを設置

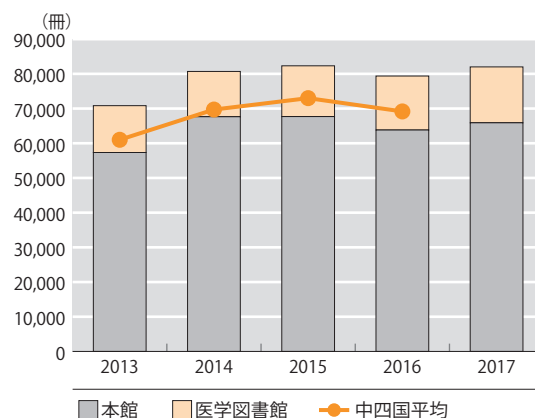


貸出

貸出冊数

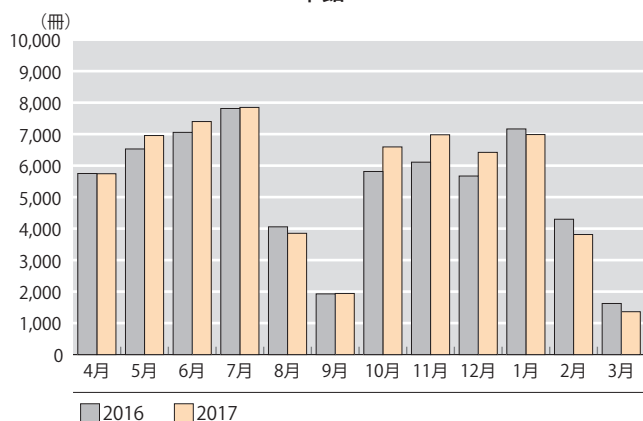
		2013	2014	2015	2016	2017
本 館	学 生	48,098	57,367	57,301	53,631	55,564
	教 職 員	5,672	6,015	5,851	5,598	5,809
	学 外 者	3,565	4,263	4,541	4,585	4,523
	小 計	57,335	67,645	67,693	63,814	65,896
医 学 図 書 館	学 生	11,500	11,051	12,421	12,871	13,694
	教 職 員	1,629	1,709	1,688	2,273	2,171
	学 外 者	370	291	518	418	243
	小 計	13,499	13,051	14,627	15,562	16,108
合 計		70,834	80,696	82,320	79,376	82,004
中 四 国 平 均		61,000	69,710	73,000	69,170	-

※延長貸出も回数としてカウントしている。

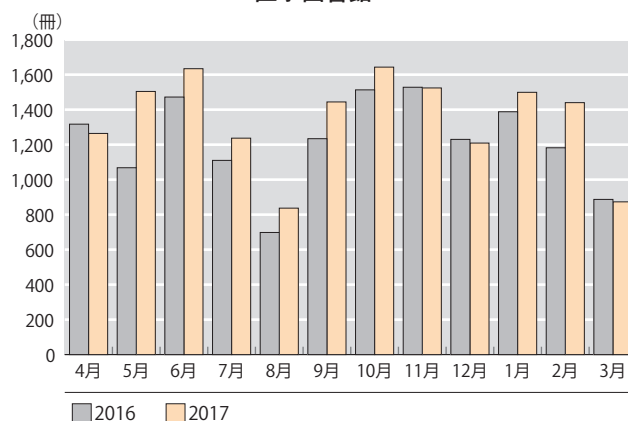


月別貸出冊数

本館



医学図書館

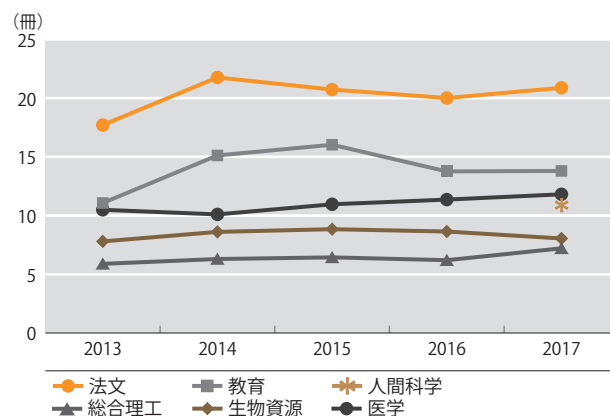


		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本 館	2016	5,750	6,529	7,056	7,814	4,057	1,928	5,814	6,110	5,670	7,165	4,298	1,623
	2017	5,743	6,956	7,400	7,848	3,851	1,941	6,594	6,980	6,421	6,987	3,813	1,362
医学図書館	2016	1,238	1,389	1,657	1,315	796	1,475	1,563	1,378	1,194	1,310	1,403	844
	2017	1,264	1,504	1,634	1,237	837	1,444	1,643	1,524	1,209	1,499	1,440	873

学生1人あたりの年間平均貸出冊数

学部	2013	2014	2015	2016	2017
法 文	17.71	21.76	20.73	20.01	20.88
教 育	11.07	15.12	16.03	13.76	13.80
人 間 科学	-	-	-	-	10.90
総 合 理工	5.89	6.30	6.44	6.20	7.21
生 物 資源	7.80	8.61	8.84	8.64	8.05
医 学	10.49	10.10	10.96	11.36	11.81

※2017年度より人間科学部が新設された

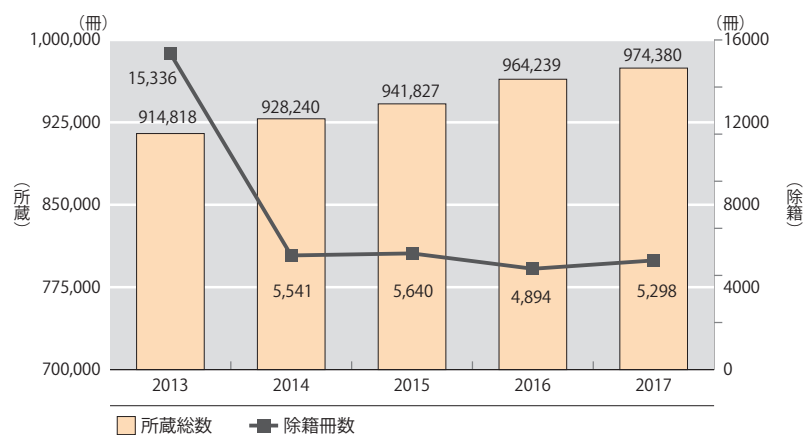
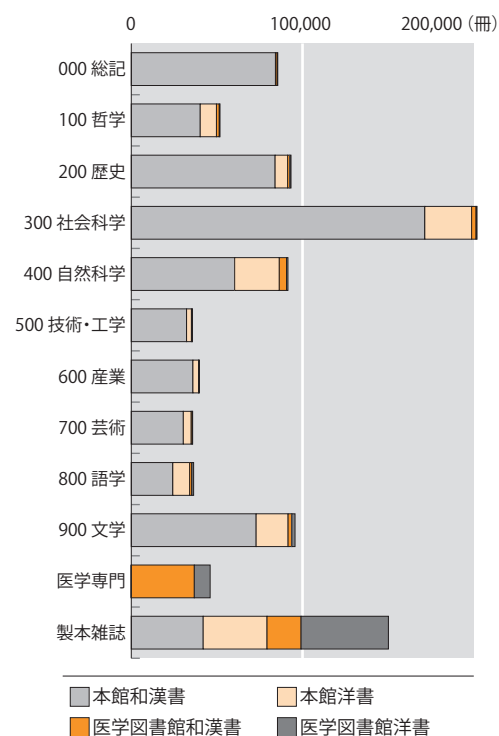


図書

■蔵書冊数（分類別）

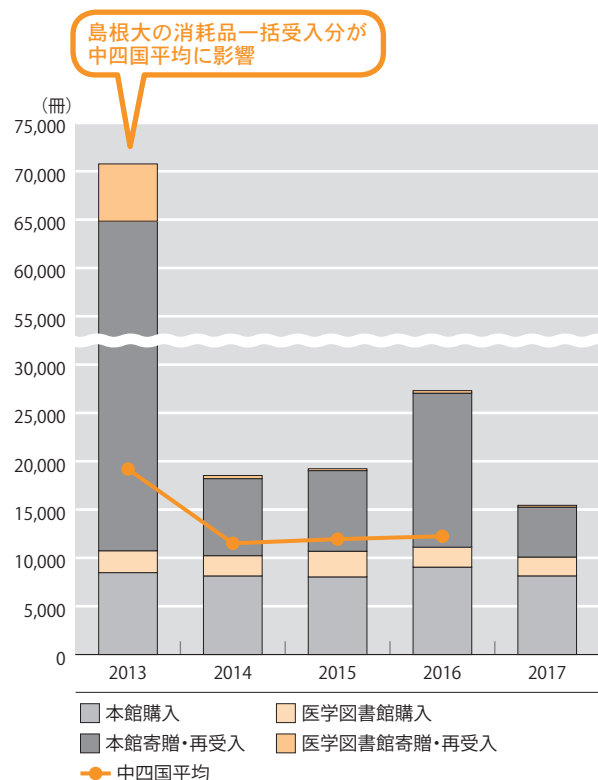
分類	本館			医学図書館			合計
	和漢書	洋書	小計	和漢書	洋書	小計	
000 総記	84,191	11,018	95,209	995	355	1,350	96,559
100 哲学	40,277	9,465	49,742	1,657	413	2,070	51,812
200 歴史	83,996	7,301	91,297	1,321	658	1,979	93,276
300 社会科学	171,398	27,330	198,728	2,605	563	3,168	201,896
400 自然科学	60,372	26,075	86,447	4,210	833	5,043	91,490
500 技術・工学	32,289	2,839	35,128	489	31	520	35,648
600 産業	35,998	3,311	39,309	297	26	323	39,632
700 芸術	30,400	4,605	35,005	691	136	827	35,832
800 語学	24,255	9,819	34,074	1,266	1,067	2,333	36,407
900 文学	72,918	18,657	91,575	2,172	1,880	4,052	95,627
医学専門	2	0	2	36,817	9,241	46,058	46,060
製本雑誌	42,008	37,270	79,278	19,875	50,988	70,863	150,141
合 計	678,104	157,690	835,794	72,395	66,191	138,586	947,380

※2018年3月31日現在の数字。ただし、データ抽出は2018年5月1日のため冊数内訳に若干数の変更がある。
※視聴覚資料を含む。



■受入冊数

			2013	2014	2015	2016	2017
本館	和漢書	購入	7,288	7,219	7,152	7,855	7,281
		製本雑誌	736	641	460	395	530
		寄贈	2,216	4,859	1,492	2,304	3,392
		再受入	45,015	2,832	3,995	13,031	1,524
		計	55,255	15,551	13,099	23,585	12,727
	洋書	購入	452	275	351	651	328
		製本雑誌	0	0	70	144	0
		寄贈	200	163	115	255	207
		再受入	6,942	119	2,742	346	49
		計	7,594	557	3,278	1,396	584
	小 計		62,849	16,108	16,377	24,981	13,311
医学図書館	和漢書	購入	1,628	1,449	1,986	1,489	1,346
		製本雑誌	398	390	371	380	414
		寄贈	471	169	168	162	172
		再受入	2,506	78	10	86	2
		計	5,003	2,086	2,535	2,117	1,934
	洋書	購入	133	150	170	98	96
		製本雑誌	104	105	128	95	91
		寄贈	15	25	13	5	7
		再受入	2,931	48	4	10	0
		計	3,183	328	315	208	194
	小 計		8,186	2,414	2,850	2,325	2,128
合 計			71,035	18,522	19,227	27,306	15,439
中四国平均			19,191	11,508	11,941	12,238	-
除籍冊数			15,336	5,541	5,640	4,894	5,298
所蔵総数			914,818	928,240	941,827	964,239	974,380



図書館資料費

図書館資料費の推移

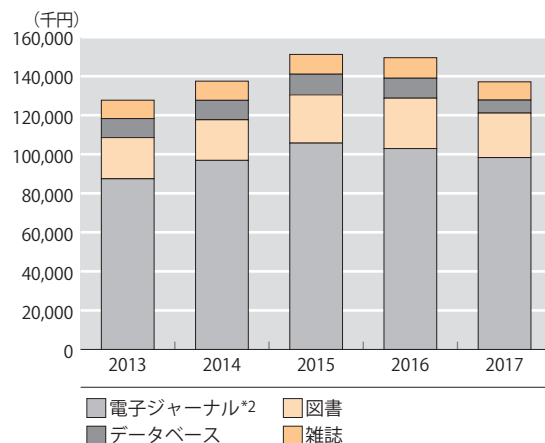
(単位：千円)

		2013	2014	2015	2016	2017
本 館	図 書	15,807	15,617	15,533	15,628	17,311
	図 書（戦略*1）	0	0	2,708	5,000	0
	雑 誌	5,810	5,720	5,800	5,840	6,286
	小 計	21,617	21,337	24,041	26,468	23,597
医 学 図 書 館	図 書	5,289	5,183	5,192	5,181	5,488
	図 書（戦略*1）	0	0	1,290	0	0
	雑 誌	3,612	4,119	4,347	4,689	3,062
	小 計	8,901	9,302	10,829	9,870	8,550
	データベース	9,754	9,953	10,570	10,212	6,649
	電子ジャーナル経費*2	87,439	96,870	105,719	102,929	98,309
	電子ジャーナル（戦略*3）	0	0	0	399	659
	合 計	127,711	137,462	151,159	149,878	137,764

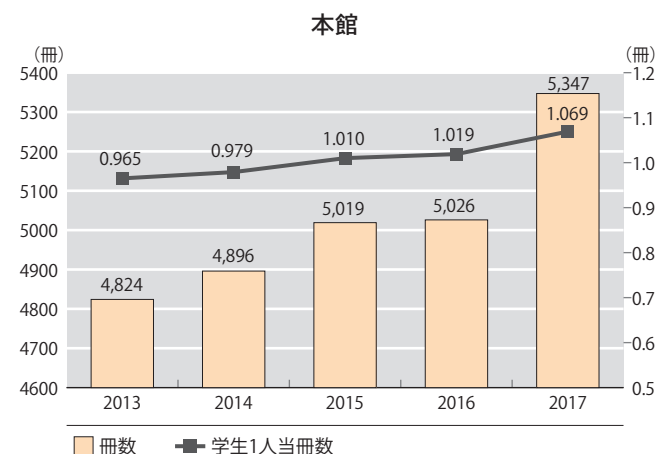
*1 戦略的機能強化推進経費での購入分

*2 学術情報基盤整備計画（P. 8参照）にかかる経費相当分

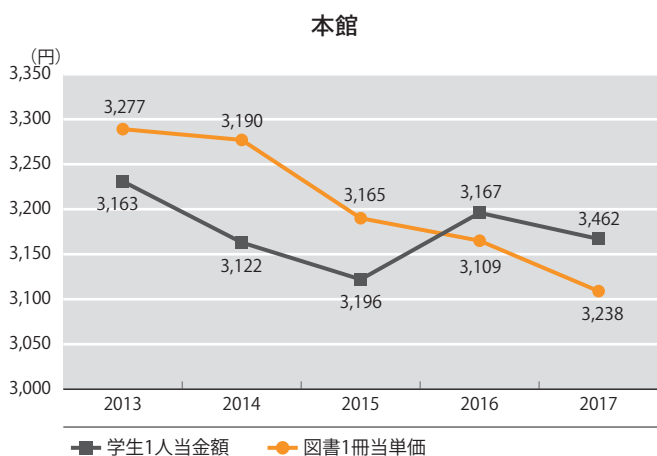
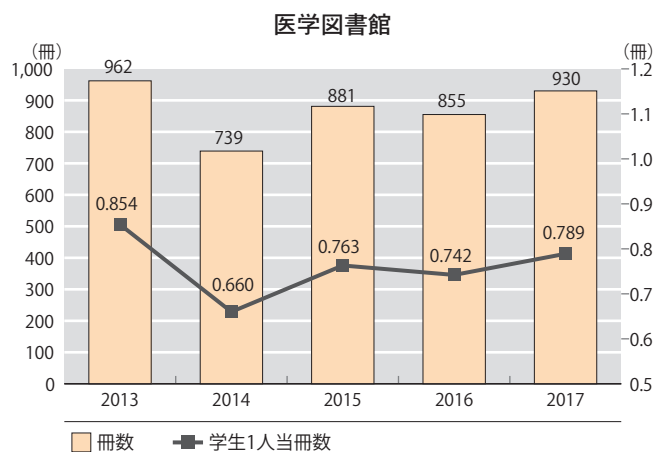
*3 戦略的機能強化推進経費（外国語教育強化）での購入分



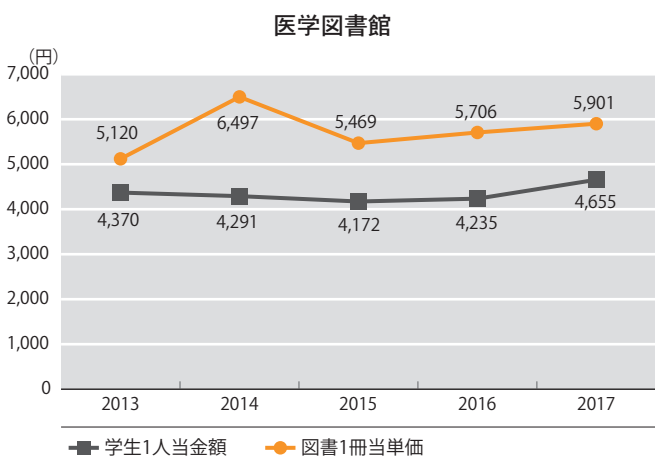
学生用図書費



※グラフ中では比較のため、戦略的機能強化推進経費での購入分は含めていない。



※グラフ中では比較のため、戦略的機能強化推進経費での購入分は含めていない。



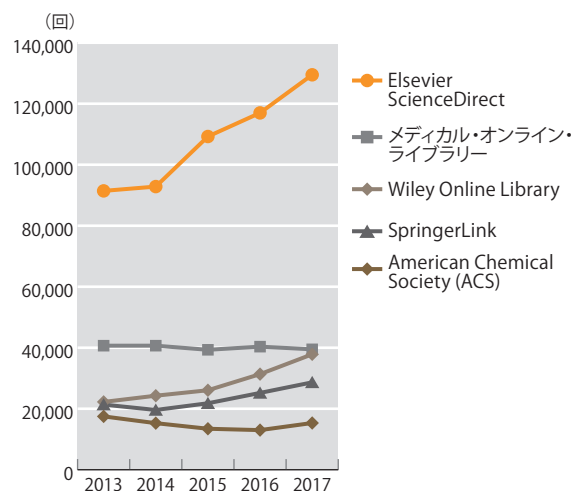
統計

電子ジャーナル

■主要電子ジャーナルの利用状況（ダウンロード数）

	2013	2014	2015	2016	2017
Elsevier ScienceDirect	91,421	92,833	109,247	116,989	129,478
メディカル・オンライン・ライブラリー	40,670	40,675	39,323	40,357	39,480
Wiley Online Library	22,237	24,275	26,063	31,343	37,847
SpringerLink	21,358	19,600	21,797	25,189	28,654
American Chemical Society (ACS)	17,490	15,273	13,442	12,994	15,323
Oxford Online Package	5,606	8,201	8,218	8,820	10,614
Nature本誌	3,705	4,759	4,871	4,712	5,284
PNAS	2,645	2,390	2,559	2,703	2,257
Science	2,455	2,093	2,434	2,252	2,121
JSTOR	1,967	1,777	2,252	1,436	2,202
Cell	1,412	1,280	1,432	1,084	1,529

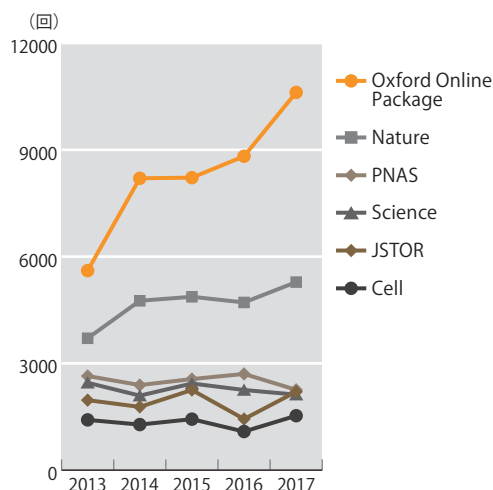
※電子資料・主要データベースの年間統計については、当該年度の1月～12月で集計している。
(他のページでは当該年度の4月～3月)



■電子ジャーナル契約タイトル数

(全学共通経費等)	Cell	洋	1
	Elsevier ScienceDirect	洋	2,405
	JSTOR*1	洋	146
	Nature	洋	1
	Oxford Online Package	洋	320
	PNAS	洋	1
	Science	洋	1
	SpringerLink	洋	1,600
	Wiley Online Library	洋	1,403
	小計		5,878
(図書館含む)	American Chemical Society (ACS)	洋	49
	American Physical Society (APS)	洋	10
	British Medical Journal (BMJ)	洋	23
	Karger	洋	80
	Lippincott Williams and Wilkins(LWW)	洋	57
	Project Euclid (Prime Collection)	洋	27
	その他個別タイトル	洋	55
	メディカル・オンライン・ライブラリー	和	1,252
	その他個別タイトル	和	2
	小計		1,555
	タイトル数 合計		7,433

*1 Art & Science Collection I, Health & General Science Collection

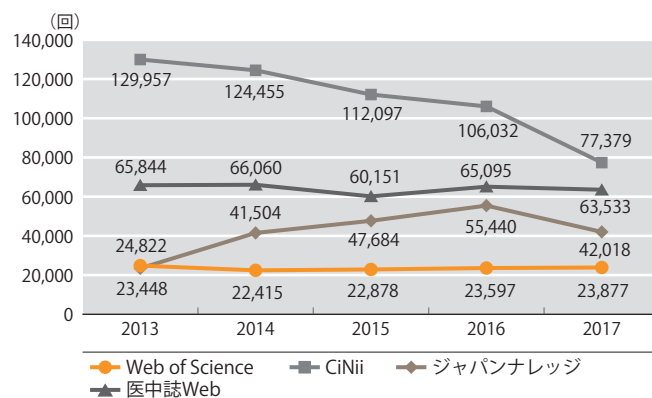


データベース

■データベースリスト

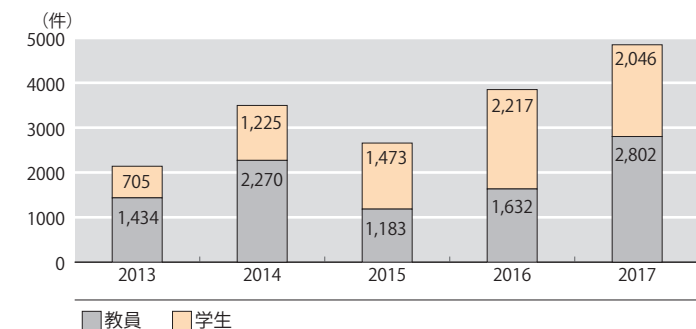
データベース名称
Web of Science
JCR: Journal Citation Reports
Summon(Discovery Service)
CINAHL
Westlaw Japan
ジャパンナレッジLib
医学中央雑誌Web版
日経テレコン21
聞蔵II ビジュアル
ヨミダス歴史館
化学書資料館
ルール電子図書館
和歌ライブラリー

■主要データベースの利用状況（検索回数）

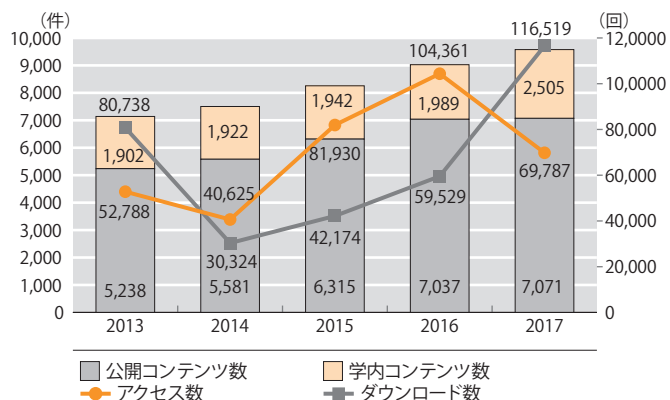


Webサービス

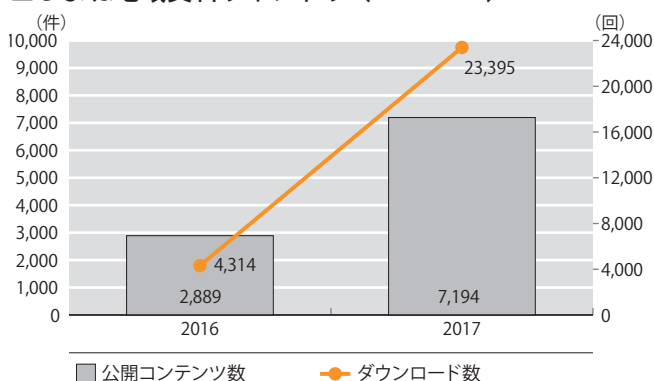
■EZproxy（リモートアクセス）ログイン件数



■島根大学学術情報リポジトリ (SWAN)



■しまね地域資料リポジトリ (GO-GURa)



2017年度にインターフェースを一部改修したしまね地域資料リポジトリ

※GO-GURaの公開は2016年11月1日から

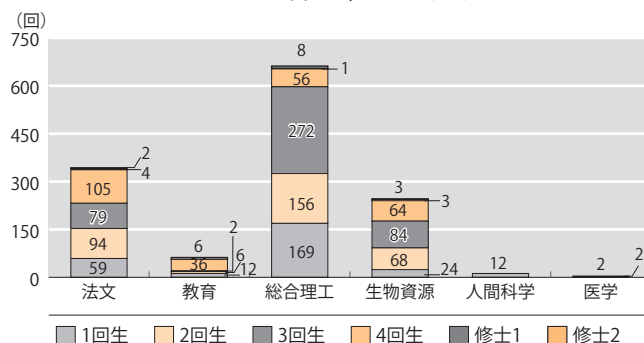
■本館の『館内施設利用予約』(Web予約システム)

部屋名	総利用時間*1	稼働率 [%] *2
グループ学習室1	1,128時間15分	34.53
グループ学習室2	915時間45分	28.03
研究個室1	530時間15分	16.23
研究個室2	266時間45分	8.16

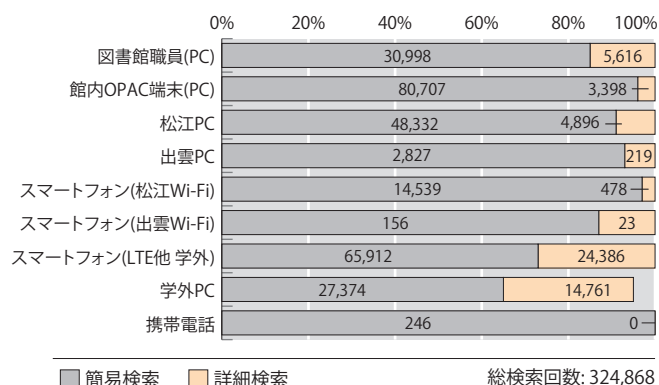
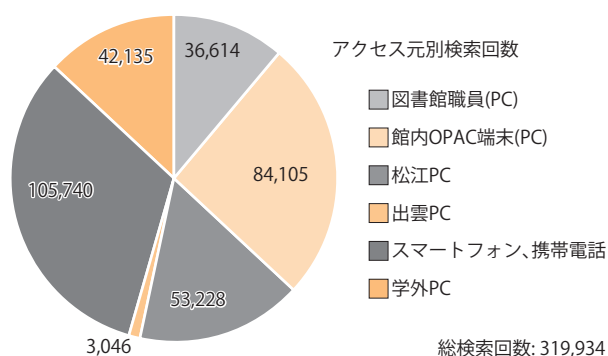
*1 総利用時間とは、館内施設を実際に利用した時間を累積したもの

*2 稼働率とは、利用時間を本館の総開館時間(3,255時間30分)で除算したもの
※本館では、開館時間中であればグループ学習室と研究個室の利用ができ、その予約をWeb上でできるようにしています。

グループ学習室1,2の利用回数



■OPAC検索回数 (アクセス元別)

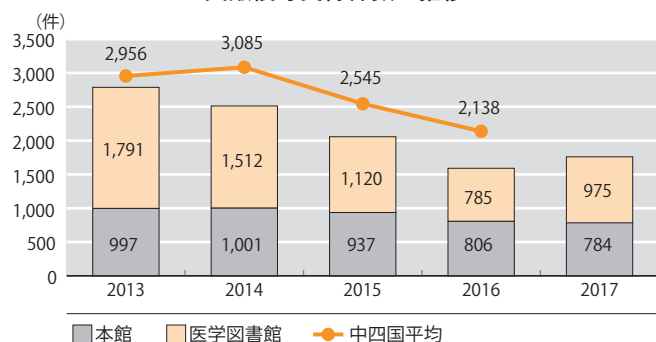


相互協力

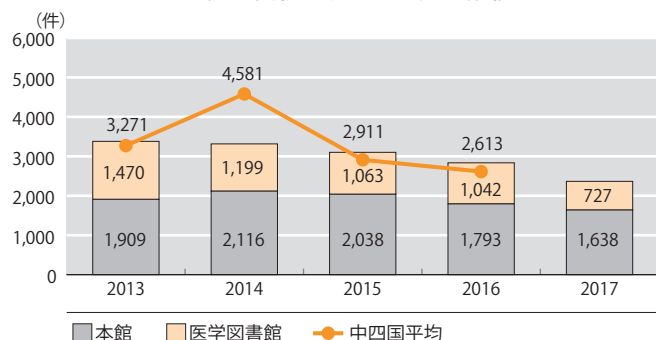
■文献複写件数

		2013	2014	2015	2016	2017
本館	受 付	997	1,001	937	806	784
	国内依頼	1,908	2,115	2,038	1,793	1,638
	海外依頼	1	1	0	0	0
	依頼小計	1,909	2,116	2,038	1,793	1,638
医学図書館	受 付	1,791	1,512	1,120	785	975
	国内依頼	1,470	1,199	1,063	1,042	727
	海外依頼	0	0	0	0	0
	依頼小計	1,470	1,199	1,063	1,042	727
中四国平均	受 付	2,956	3,085	2,545	2,138	-
	依 頼	3,271	4,581	2,911	2,613	-

文献複写受付件数の推移



文献複写依頼（取寄）件数の推移



■県内図書館間の相互貸借（本館）

	貸出冊数					借受冊数				
	2013	2014	2015	2016	2017	2013	2014	2015	2016	2017
島根県立大学（松江）	15	15	26	32	12	9	6	5	10	5
松江高専	1	0	7	17	4	0	0	1	2	0
島根県立図書館	6	14	23	23	53	18	24	10	21	23
県立以外の公共図書館	111	111	131	160	240	23	13	12	12	21
合計	133	140	187	232	309	50	43	28	45	49

■団体貸出

松江市立図書館コーナーの貸出回数

テーマ	展示期間	展示冊数	貸出回数
なつかしの絵本、梅雨・湿気対策、アウトドア、コンシェルジュが気に入った表紙	2017/05/24～2017/07/12	102	59
大学生が読んで面白い児童文学、犬、抹茶と和菓子	2018/01/24～2018/03/09	102	37
合計		204	96

※松江市立中央図書館からの団体貸出

いこうる（男女共同参画図書コーナー）の貸出回数

テーマ	展示期間	展示冊数	貸出回数
国際関係、子ども、セクシュアリティ、男女共同参画、文化	2017年4月～2017年6月	100	11
男女共同参画、家庭・家族	2017年7月～2017年9月	100	11
理科系、キャリア・しごと、いのち、社会、男女共同参画	2017年10月～2017年12月	100	3
キャリア・しごと、人権、多文化・国際比較、セクシュアリティ	2018年1月～2018年3月	100	4
合計		400	29

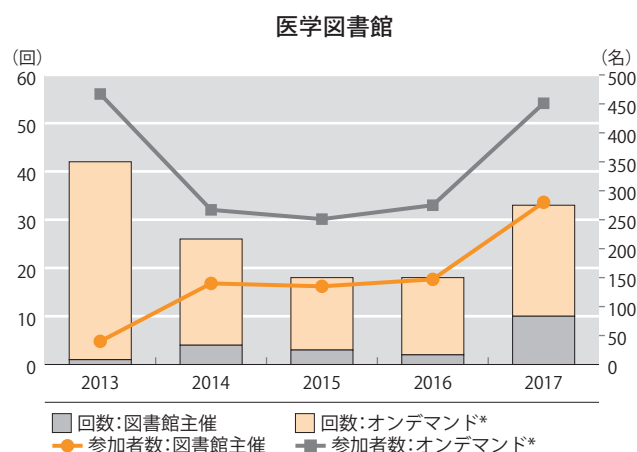
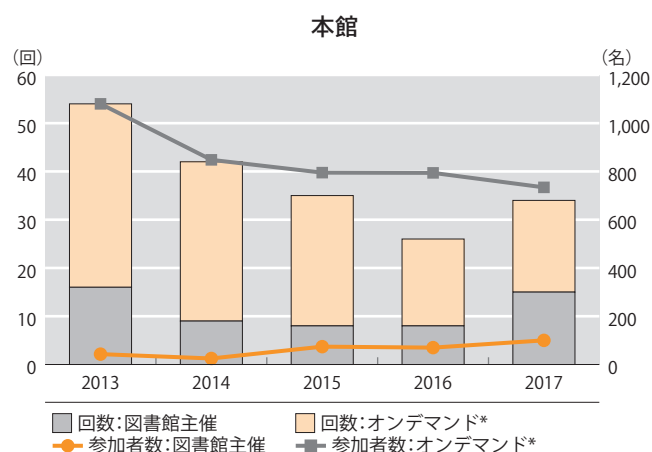
※国立女性教育会館からの団体貸出

講習会

■学術情報リテラシー講習会

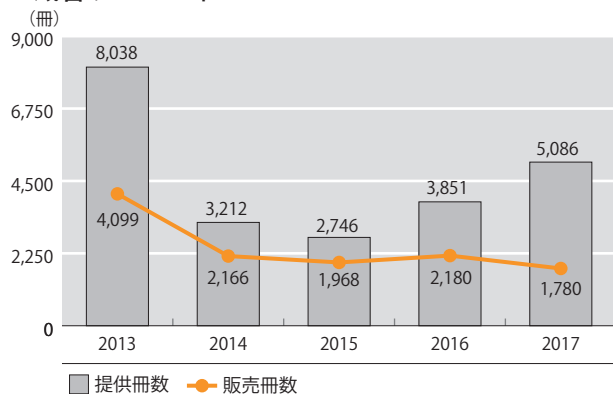
			2013	2014	2015	2016	2017
本館	図書館主催	回数	16	9	8	8	15
		参加者数	43	25	74	70	100
	オンデマンド*	回数	38	33	27	18	19
		参加者数	1,080	848	795	794	734
医学図書館	図書館主催	回数	1	4	3	2	10
		参加者数	40	140	135	147	280
	オンデマンド*	回数	41	22	15	16	23
		参加者数	467	267	251	275	451
参加総数			1,630	1,280	1,255	1,286	1,565

*オンデマンドとは、教員と連携して授業内で実施したものや個々の利用者の求めに応じて開催した講習会を指す。



その他

■蔵書リユース市



SHIMANE UNIVERSITY LIBRARY

Annual Report 2017

島根大学附属図書館年報2017

2018(平成30)年8月発行

発行：島根大学附属図書館

印刷：株式会社谷口印刷

《本館》〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL.0852-32-6083 FAX.0852-32-6089
《医学図書館》〒693-8501 出雲市塩冶町89-1 TEL.0853-20-2094 FAX.0853-20-2095